

今年こそ 合格したい人の 勉強法①



2019年度本試験合格のために、まずやらなくてはならないことは、受験予備校やその講師から示される画一的な勉強法をただ実践することだけではなく、受験生の皆さん個人個人の状況に応じた「**現状の課題の抽出**」と、その課題に対する「**分析とその分析に対する具体的な対策の実施**」を「**自らの手と頭を使って**」行うことです。今月号では、この「**現状の課題の抽出**」について、どのような方法で行えばいいのか、「**具体的な方法**」を皆さんにご提案します。



社会保険労務士 **三宅 大樹** (山川社労士予備校)



はじめに

この特集は、今年8月26日に実施された2018年度本試験を受験されたばかりの方を対象にしています。来年度こそは！と思っていらっしゃる方も多いかと思います。

もちろん、すぐに勉強をスタートするというのも、悪くはありませんが、スポーツの世界でも仕事でも、試合や大きなプロジェクトの後には、必ず結果についての「**ミーティング**」をし、そこで出された反省内容やアイデアを、次の試合やプロジェクトに活かすための対策を立てますよね。基本的に社労士試験もこれと同じです。結果に対する振り返りをまったくしないで、次にすぐ向かうのは、また違う場面で同じような失敗をする可能性が高くなります。

ただ、社労士試験がスポーツの世界や仕事と少し違うところは、受験勉強は基本的に1人で行っているため、この**ミーティング**も1人で行う必要がある点です。

よく、「〇〇についての勉強法」ということが言われ、確かに受験生の大半にある程度共通する最大公約数的な対策方法はあるとは思いますが、**最終的には、「自分の状況に応じた方法」**を取る必要があります。この特集では、そのセルフミーティングを行う具体的な方法を、2つのステップでご紹介していきます。

準備：はじめに、今年度の受験勉強の過程で「うまくいったこと」を書き出してみる

ややもすると、本試験で「**うまくいかなかったこと**」だけを思い詰めてしまいがちですが、特にこの社労士試験は、成功と不成功の境目は本当に些細なことだったりします。つまり、今年度の本試験に向けてこの1年間に「**うまくいったこと**」は、本試験の結果にかかわらず、必ずあったはずですよ。

もちろん、反省材料を見つけそれを分析し、その分析の結果として対策を講じることが大事なことは言うまでもないのですが、まずそれを行う前に、この1年間に自分が努力してうまくいったことを、「**文字にして**」（できれば、手書きで）書き出してみましょう。この「**うまくいったこと**」は、もちろん、受験勉強に直接関することや本試験の結果の中でもうまくいったことが中心になるかもしれませんが、それ以外にも例えば、受験勉強の中で、「**仕事・家事・育児等**」も一生懸命に頑張ったなあという人も多いと思います。そのようなことも含めて、「**うまくいったこと**」を箇条書きで、できるだけ沢山書き出してみてください。この切り口に正解はないのですが、一例として、以下のような切り口を参考に書いてみるのはいかがでしょうか？

【2018年度 うまくいったことリスト（例）】

| | |
|--------|---|
| ①勉強方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・手持ちの教材をやり切った！ ・今まで時間がかかったテキストを読むことが、できるようになった。 |
| ②勉強時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・1日も休まずに毎朝、始発電車に乗り会社近くのファミレスで勉強した。 ・平日は毎日3時間、休日は6時間勉強した。 |
| ③得意科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験1年目で苦手科目だった年金法を克服した。 ・徴収法だけはどこから出題されても大丈夫！ |
| ④自分の成長 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの人生の中で、こんなに勉強した自分は初めて。 ・得意科目の労働関係ならば、今すぐにでもプロの仕事ができる！ |
| ⑤本試験 | <ul style="list-style-type: none"> ・選択式では涙を飲んだけど、択一式では初めて合格ラインを超えたよ。 ・あの選択式の難問、準備していたので私は余裕で解けたなあ…！ |
| ⑥仕事・家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・受験勉強しながらも、仕事で大きなプロジェクトを成功させた。 ・家族の支えもあって、この1年頑張れた。ママありがとう！ |

自分で書いていると、なんだか自画自賛みたいで恥ずかしいと思うのですが、いいんです。職場の上司や仲間、家族、友人、予備校の講師も皆さんのこの1年の頑張りを見てきているとは思いますが、自分の頑張りを一番よく知っているのは誰もいない「**皆さん自身**」です。

そして、このうまくいったことは、2019年度の本試験に向けて、より磨き上げてさらに活かせばいいんです。まずは、自分で自分のこの頑張りを褒めることから始めてみましょう。